



広島陵北ロータリークラブ

THE ROTARY CLUB HIROSHIMA-RYOHOKU

The Weekly Report



世界に希望を生み出そう

2023-24 年度テーマ

ゴードン R. マッキナリー会長エレクト

クラブテーマ

こころゆたかなロータリアン

本年度会長方針

「感謝の心で奉仕しよう」「みんなで助け合い 楽しもう ロータリー活動」

第1509回例会 2024年5月15日No.1484号

会長時間



会長 高野憲一郎

皆さん、こんにちは。連休も終わり、少しずつ暑さを感じる日が増えてきました。皆さん、如何お過ごしでしょうか？自分自身、寒いよりか暑い方が好きなので、少しずつ元気が出てきています。5月は、若い人々の育成を支援するすべてのロータリー活動に焦点を当てる「青少年奉仕月間」です。ロータリークラブは、この月間中、クラブのニュースレターやその他の広報資料に「各ロータリアンは青少年の模範」のスローガンを利用するよう奨励されています。奉仕の第五部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、積極的世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化をもたらされることを認識するものです。具体的には、インターアクト活動、ローターアクト活動、RYLA（青少年指導者養成プログラム）、青少年交換プログラムの4つのプログラムが展開され、青少年の成長と社会貢献を促進するために大切な活動となっています。本日は、NPO法人日本インクルーシブ教育研究所 理事長 中谷美佐子様、「インクルーシブ教育とは」の卓話をお願いしております。なぜ学校で「インクルーシブ教育」が必要なのか？「インクルーシブ」とはなにか？の卓話をして頂けると幸いです。中谷美佐子様には、最後まで宜しくお願い致します。5月第2例会の会長時間を終わらせて頂きます。有難うございました。

誕生会員スピーチ



5月22日のプログラム

広島西ロータリークラブ 会長 諏訪昭浩様

5月29日のプログラム

もみのき森林公園 元支配人 梅田 斉 様

出席報告 (例会運営委員会)

5月15日出席者

会員総数	46名
出席会員	33名
欠席会員	13名
ご来賓	1名
ご来客	0名
ゲスト	0名

来客者紹介 (親睦家族委員会)

5月15日出席者

ニコニコBOX SMILE BOX

高野憲一郎会員 吉田尊禮会員 星月光生会員 瓜生智則会員 横須佳織会員

中谷様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

当日計

11,000円

幹事報告 (星月光生)

1.お知らせ

・地区事務局よりEXPO2025大阪・関西万博開幕日(2025年4月13日)の入場券のご案内が届いておりますので配布しております。一般のチケットとは異なり、ロータリー独自のデザインになっております。(一人当たり4,165円)ご購入を希望される方は5月中に事務局までお申し出ください。

・6月よりクールビズといたします。

・2024年4月20日付けにて安部会員が退会されました。

國政秀一会員

中谷さん、本日はインクルーシブ教育の話よろしくお願ひ致します。楽しみにしています。

1,019,000円

若い世代の「死因トップが自殺」はG7で日本だけ：未成年自殺率、最悪を更新

土台に「人権」 一人ひとりの学ぶ権利を保障



隔れたカリキュラム 教材に描かれるジェンダー役割

全教科書における職業従事者の挿絵は男性65%、女性27%で男性の方が2倍以上多く、職業の種類は男性102種類、女性67種類で男性がより多くの職業で描かれていた。

職業分類別では女性の割合が50%を超える職業はなく、「建設・採掘業」では女性の働く挿絵がなかった。「保健」以外の7教科では男性の方が多く、すべての学年でも男性の方が多く描かれていた。これらことから、教科書の挿絵でもにもかわらず、職業に携わる人の挿絵は男女等しく描かれているとは言えず偏りがあることが明らかとなった(鈴木・室, 2017)

アンコンシャス・バイアス (無意識の思い込み、偏見)

誰かと話すときや接するときに、これまで経験したことや、見聞きしたことと照らし合わせて「この人は〇〇だからこうだろう」「ふつう〇〇だからこうだろう」と、あらゆるものを「自分なりに解釈する」という脳の機能によって引き起こされるもの

身近な アンコンシャス・バイアスの例

- ・お茶出し、受付対応、事務職、保育士という、女性を思い浮かべる
- ・「親が専業主婦中」というと、父親を想像する(母親を想像しない)
- ・子どもが病気になる時は母親が休んだほうが良いと思う
- ・定時で帰る人は、やる気がないと思う
- ・上司より先に部下が帰るのは失礼だと思う
- ・年配(高齢者)の人は頑固で、多様な働き方への融通が利かないと思ってしまう
- ・外国人労働者を見ると、出稼ぎなど、一時的な滞在者だと思ってしまう
- ・障がいのある人は、簡単な仕事しかできない、あるいは働くのが難しいと思う
- ・「多様性」と聞くと、全ての違いを、なんでも受け入れなければならないと思う
- ・LGBTQの人は一部の職業に偏っていて、普通の職場にはいないと思う

差別や偏見をつくるのは アンコンシャス・バイアス

そして、アンコンシャス・バイアスをなくすることができるのが「対話」

参考：一般社団法人アンコンシャス・バイアス研究所

合理的配慮の提供が義務化



- ・不当な差別的取扱い
 - ・合理的配慮の不提供
- 禁止



インクルーシブな 農業プロジェクト



対話のある社会で 差別のない社会をつくる インクルーシブ教育を!

NPO法人日本インクルーシブ教育研究所
<https://www.jiei.org/>



※資料に関する質問や不明点がある場合は、講演者に直接お問い合わせください。